

平成25年度 糸魚川市学校保健部 活動報告

部長 野上 正和

中学校区の児童生徒の健康課題を把握し、小・中学校が連携を図る中で、義務教育9年間の視点から児童生徒の理解と健康管理能力を育成するための養護教諭の支援について研修を深める。(糸魚川市学校教育研究会学校保健部会と糸魚川市養護教員会、糸魚川市学校保健会研修部との合同研修を展開)

1 研究テーマ

児童生徒の健康管理能力の育成～中学校区での実践～ (2年次研修の1年次目)

2 研究の概要

児童生徒の健康管理能力を育成するために、目指す子ども像を設定し、発達課題に合わせて、各中学校区でテーマ別に実践研究を行う。

3 研究の実際

- (1) 養護教諭が、保健室のかかわりから自校の健康課題を踏まえ、児童生徒の健康管理能力を育成するために、研究テーマを設定する。
 - ①保健教育(保健学習・保健指導など)：糸魚川東・糸魚川・青海中学校区
 - ②保健組織活動：能生中学校区
- (2) 各校の養護教諭が、互いに課題や成果を共有・実践化できるように中学校区のグループでの研修を行う。

<実践内容>

○ 指導者招聘による講義研修会とグループワーク

・ 1回目：

講義・・・県立教育センター 脇川恭子指導主事「養護教諭が行う研究とこれからの方向性について」
グループワーク・・・各中学校区の研究の方向性を設定・共有化を図る。

・ 2回目：

講義・・・上越教育事務所 丸山美貴指導主事「児童生徒の健康管理能力を高めるための養護教諭の役割」
グループワーク・・・研究実践の中間報告会、今後の研修実践についての検討

・ 3回目：グループワーク・・・今年度の成果と次年度への課題(2月)

○ 講義と実習

児童生徒の健康管理面において、食物アレルギー等により引き起こされるアナフィラキシー症状に対する学校現場や教職員の対応が喫緊の課題となっている。不安を抱く養護教諭や教員も多い反面、危機感を持たない教職員も存在する。しかし、法令や文科省の通知による、現場背景を踏まえて、食物アレルギーの現状と治療法の内容とエピペンの使用実習を行った。

講師：県立吉田病院小児科部長 松野正知医師

4 成果と課題

県の「学校保健推進計画」や糸魚川市教育方針「子ども一貫教育基本計画」を基に関連機関や各種部会、保護者、地域と連携を深めた実践を展開できた。(例えば、糸魚川市学校保健会(糸魚川市医師会・高等学校や特別支援学校との連携)中学校区単位では、能生中学校区の能生地域学校保健委員会(学校・行政・能生地域医療関係者)、糸魚川中学校区の学区生徒指導部、青海中学校区の青海地域連携を進める会) 今後は、さらに養護教諭の専門性をいかし、実践の充実化を図りたい。